

## 社会系講座 2回目のワークショップ

課題研究 SGH 関連講座社会系では、それぞれのグループが研究フィールドとして取り組んでいる国・地域に関して、より詳細な情報を得ることを目的に今年度2回目のワークショップを行いました。

今回も関西学院大学および京都大学のご協力をいただき、両日とも現地滞在経験のある方を助言者としてお招きすることができました。

**月曜組** 8月28日（月）5限

<マレーシア>

助言者は

京都大学東南アジア地域研究研究所  
学振特別研究員 伊賀司さん です。



8月5日に京都大学で行った高校生セッション（「アジア探究～文系」リポート3を参照）で得られた内容もふまえて、ボルネオ（カリマンタン）島サバ州・サラワク州の状況やブミプトラ政策の詳細についてなど、新たに探究すべき課題が見つかりました。

<カンボジア>

助言者は

関西学院大学 総合政策学部  
4回生 可児真由子さん  
4回生 榎本有衣さん です。



現地の教科書についての現状や教員養成課程などの教育環境に関すること、および電力供給やインターネット環境などのインフラに関することについて具体的な情報を得ることができ、グループで取り組んでいる提言に関して検討すべき課題が見つかりました。

**木曜組** 8月31日（木）5限

<カンボジア>

助言者は

関西学院大学 総合政策学部  
4回生 可児真由子さん  
4回生 榎本有衣さん です。



現地での教員の待遇の問題、子どものドロップアウトとその背景にある経済格差、そして水道などインフラ整備の状況など、非常に具体的な情報を得ることができ、教員の養成と教育環境の整備というテーマに絞り込んでいくという方向が見えてきました。

<タイ>

助言者は

関西学院大学経済学部

4回生 前田佳帆子さん です。



このグループは、「麻薬が蔓延する状況」を現在の探究テーマとしているので、得られる情報が限られます。しかし今回のワークショップでは、政府機関と密売組織との癒着、農村部における貧困が麻薬の原料となる植物を栽培する原因となる、などの知見を得ることができ、探究を進めていく上での方向性が見えてきました。

どのグループも時間内を通じて熱心に質疑応答がおこなわれ、最後に予定していた各グループからの報告の時間がとれないほどでした。

夏休みが終わり、これからはさまざまな学校行事が連続して行われます。忙しい中ではありますが、生徒たちにはこれまでに得られた知見を十分に活用し、11月にある中間発表に向けて理論の構築をしっかりと進めていくよう指導したいと考えています。

最後になりましたが、残暑きびしい中ご多用にもかかわらずご来校くださいました助言者のみなさまにあらためて感謝申し上げます。